

研修会報告書

報告者: シセ田 リナ

出席者: シセ田 リナ

下島 真緒

【開催概要】

日時: 2026 年5月11日

講師: 宮津 航一さん

テーマ: 「子どもの幸せを社会全体で支えるために」

先日、尼崎市議会で開催された宮津航一さんの講演会に参加しました。宮津さんは、熊本市の慈恵病院が運営する「こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)」に3歳のとき預けられました。

その後、里親家庭で育ち、現在は熊本県立大学で学びながら、「ふるさと元気子ども食堂」の代表や一般社団法人「子ども大学くまもと」の理事長として活動されています。また、自身の経験を全国で語り、子どもたちが安心して暮らせる社会づくりに取り組まれています。

「家族とは、最後まで味方でいてくれる存在」講演の中で特に印象に残ったのは、「家族とは、血のつながりではなく、最後まで味方でいてくれる存在」という言葉でした。

宮津さんは、里親である宮津美光さん・みどりさん夫妻から惜しみない愛情を受けながら育ちました。幼い頃から何度も抱きしめてもらい、自分の生い立ちについても隠すことなく向き合ってもらえたこと、困難な出来事があった際には家族が全力で守ってくれたことなど、一つひとつの経験が「自分は大切な存在だ」と思える土台になったと話されていました。

「子どもには罪がない」このとりのゆりかごには、さまざまな事情を抱えた家庭から子どもが託されます。望まない妊娠、経済的困窮、虐待、DV、孤立した子育てなど、その背景は一人ひとり異なります。

宮津さんは、「子どもには何の罪もない。大切なのは、その子どもが幸せに育つこと」と語られました。子どもを取り巻く環境は本人には選ぶことができません。だからこそ、行政だけでなく地域や学校、医療、福祉など、社会全体で子どもを支えていくことの大切さを改めて考えさせられました。

「自分の経験を、誰かの希望に」宮津さんは、高校卒業後から自らの生い立ちを公表し、講演活動を始められました。「このとりのゆりかご」に預けられた当事者の声はこれまで多く語られてきませんでした。自分自身の言葉で経験を伝えることで、同じような境遇の子どもたちや家族に希望を届けたいという思いで活動されています。

現在は、子ども食堂や子ども大学の運営を通じて、多くの子どもたちの居場所づくりにも取り組まれています。

今回の講演を通じて、「虐待を防ぐ」「保護する」だけではなく、孤立を防ぐことこそが最も重要な支援であると改めて感じました。尼崎市では「いくしあ」に児童相談所が設置されるなど、子ども家庭支援が充実しつつありますが、さらに次のような取組を進めていく必要があります。

- ① 妊娠期から切れ目のない相談支援
- ② 地域の居場所づくり
- ③ 里親制度・特別養子縁組の理解促進

④ 子どもの事故・虐待を未然に防ぐ取組

宮津さんは最後に「子どもたちは未来そのものです」と話されていました。どのような家庭に生まれてもどのような環境で育っても、一人ひとりが大切にされ、自分らしく成長できる社会をつくることが私たち大人の責任です。

今回の講演で学んだことを尼崎市政にいかしてまいります。